



414  
 A2262  
 2



印刷局之事

一 判任官	三	人
一 御用掛	四拾六	人
一 等外出仕	貳拾貳	人
一 御雇	四拾四	人
一 寫字生	三拾四	人
一 給仕	九拾	人
一 小使	拾六	人

明治十二年度

一定額常費金五万五千五百八拾七圓

俸給給與旅費廳中費既費編輯費紙幣燒却費ナリ

大正十一年四月贈

344  
 2



本局ノ儀ハ工場七部総理ノ事務ヲ掌トル所ニシテ庶務計算調度ノ三掛ヲ置キ各其處務規程ヲ設ケ之ヲ分任セシム庶務掛ハ局中人算ノ進退賞罰及規則命令記録文書受付等ニ関スル一切ノ事務ヲ管掌シ計算掛ハ全局會計ノ基本顛末ヲ總括シ総理簿冊ヲ備、定額常費及作業收支ノ豫算ヲ立テ、其首尾ヲ整理シ製造品種ノ價直損益ノ計算ヲ勘査シ併テ製品貯藏ノ倉庫出納ノ事務ヲ管掌シ日々ニ調度掛ノ報告ヲ集録シテ翌月ニ至リ各部ノ月報ト照査正算シ支出報告收入勘定帳ヲ調製シ及毎半季報告書ヲ調製ス又本省ニ上呈スルニ毎三ヶ月ニ營業受拂正算報告書及作業收入勘定帳ヲ調製シ毎一週年

ニ作業費損益比較表ヲ製ス調度掛ハ局中ノ資用ヲ調理節度シ工業ノ根軸トナリ工場七部ニ備フル所ノ機械什具ノ明細原簿ヲ備、其存廢ヲ審査シ金錢出納ノ事ヲ專掌シ需用物品購買貯蓄交付ノ事ヲ辦理シ兼テ製品販賣ノ事ヲ負擔シ日々ノ出納ヲ計算掛ニ報告シ又建築修繕ノ事務ヲ管掌シ又守警統轄ノ事ヲ擔任ス況ンヤ物品購買ノ事ヲ如キハ一期購入スル所ノモノ之ヲ類別スレハ貳千種ニ余リ其價金六拾万圓ニ内外ス其品位ノ精粗價格ノ高低ハ即チ工場七部ノ製品代價ニ原因ヲ生スル所故ニ常ニ府下市中若クハ横濱等ニ奔走シテ廣ク品種ノ所在ト價格ノ高低トヲ搜索探知シテ各般ノ購

蒐ニ從事盡カスル所ナリ而シテ三掛ノ外別ニ  
監工ヲ置キ工場人負ノ勤怠及規則ノ行否等工  
場一切ノ事務ヲ監督セシメ又製造事務掛ヲ置  
キ規程ヲ設ケ工場ト官民トノ間ニ介立シテ製  
造ノ注文ヲ周旋處置セシメ又編輯掛ヲ置キ貨  
幣史及工場必須ノ事ヲ編纂セシム蓋シ工場ノ  
事業擴張繁劇ナルニ至リテハ本局人負モ自ラ  
増加シ定額常費モ隨テ増額セサルヲ得ス  
以上本局官吏ノ管掌スル所ニシテ右人負ニ関  
スル費途ハ即チ前文ニ掲載スル所ノ定額常費  
ノ金額ヲ以テ支辨スルモノトス

### 工場之事

### 工場

此工場ハ紙幣公債證書等ヲ始其他各種ノ印  
刷物ヲ製造スル所ニシテ場中ヲ五區ニ分チ一ハ  
版面彫刻及石版印刷寫真ノ事業ヲ掌トリ二ハ  
印色製造及製藥ノ事業ヲ掌トリ三ハ凸凹版  
印刷ノ事業ヲ掌トリ四ハ製品調査ノ事業ヲ  
掌トリ五ハ會計總理ノ事務ヲ掌トリ各部各  
防賈負擔ノ事務アリ又豫備科ヲ設ケ本務ノ  
事業閑隙アル人負ヲ集合シ紙製ノ手細工等ノ  
事業ヲ授ケ以テ空手ノ徒ナカラシム

### 抄紙部

此工場ハ府下王子村ニアリテ紙幣公債證書等  
ニ供スル用紙ヲ抄造スル所ニシテ本務ノ傍銅版

石版ノ印刷用紙或ハ書籍用紙書翰封筒紙  
 轉寫紙等ヲ製シ各科各防賈員擔ノ事務  
 アリ又豫備科ヲ設ケ擬草紙揉紙食卓掛杖  
 巾代用紙四敷紙等ヲ製シ内外國人ノ需ニ應ス  
 ルノ事ヲ負擔スルモノトス

活版部

此工場ハ本局構内ニアリテ布告布達等ヲ印  
 刷スル所ニシテ活字鑄造活版印刷製本等ノ  
 事ヲ專掌シ未發ノ布告等ヲ印刷スルノ場所タ  
 ルヲ以テ臨時ノ夜業ニ從事シ漏洩ヲ禁スル  
 ノ嚴約アリ

機械部

此工場モ亦本局構内ニアリテ諸機械ノ製作

及修補ノ事ヲ掌トル所ニシテ鑄造鍛冶輓轆組  
 建仕上等ノ事業ヲ負擔シ防賈ニ供スル機械ヲ  
 製作スルノ事アルヲ以テ漏洩ヲ禁スルノ嚴約アリ

- 一 兩 雇 三百七拾九人
- 一 男 工 八百五拾五人
- 一 女 工 六百六拾六人
- 一 兩 雇 外國人 貳 拾 人
- 一 學 場 兩 雇 以下 貳 拾 人
- 一 守 警 百 拾 四 人

一 金 拾 八 万 圓

此金額ハ工業需用物品買上代ニ運轉使用  
 スルモノニシテ一期ノ收支ニ於テハ原額

ニ度シ入レ差引精算スルヲ以半季報告ニ  
之ヲ掲載セス此外別ニ工場營業資本ノ金  
額ナシ

當工場ハ明治七年五月新築ノ事ヲ建議シ九年  
十一月ニ至リ落成ス而シテ正院所轄ノ印書局  
ヲ當局ニ屬セラル、ニ因リ活版部ト改稱シ續  
テ本局即内ニ移シ又王子村ニ抄紙部ヲ創設シ  
又本局即内ニ機械部ヲ設置ス抑當局ノ工場ハ  
紙幣公債證書ノ如キ人民ニ對シ確信ヲ表示ス  
ル品種製造ノ事業ヲ擔當スルニ始リ其他各種  
製造ノ事業ニ連及スル所ナリ夫レ防賈ノ術々  
ル一二ノ能ク盡ス所ニアラス鑄字製本機械製  
作ノ如キニ至リテハ防賈ニ關係ナキモノ、如

シト雖全局一般ニ約テ嚴ニシ則テ明ニシ其目  
途ヲ一ニシ畢生ノ腦力ヲ負擔ノ業ニ盡シ専心一意  
ニ勉勵從事スルニアラサレハ防賈ノ術策ヲ完全堅固  
ナラシムルヲ能ハス故ニ各終生奉仕ノ誓約ヲ立工業  
ヲ専門ニ區劃シ其勤勞ヲ賞慰シ其怠慢ヲ戒メ獨立  
自營ノ道ヲ以テ之ヲ誘導獎勵シ業ヲ興シ事ヲ授ケ  
職制及成規ヲ制定シテ各々部長ニ置部中一切ノ事  
務ヲ統轄シ工場ノ開鎖ヲ掌握シテ一部ニ率先シ技術  
者ヲシテ其技ヲ達セシムルヲ任トス助役ヲ置キ部長ヲ  
補助セシメ主簿ヲ置キ部中ノ整理會計ヲ掌トランモ技師  
技手技生ヲ置キ専ラ技術上ノ事ヲ負擔セシメ部  
中各工業ニ因リテ之ヲ區劃シ各科室ニ分チ每科ニ  
科長若クハ補ヲ置キ每室ニ室長若クハ補ヲ置キ科

室長心得書ヲ定メ一科一室ヲ擔任シテ事務ヲ  
統轄管理セシメ又女工使役ノ場所ニ於テハ女  
性ノ才能アルモノヲ撰ミ女工取締若クハ副取  
締ヲ命シ取締心得書ヲ定メ其負擔ノ女工ヲ統  
轄セシメ各部一般男女職工ノ規則ヲ制定シ各  
自本分ノ工業ニ從事セシメ而シテ本局各工場  
職工ハ三井銀行ノ保證ヲ以撰奉シ抄紙部職工  
ハ早船彌三右工門外志名ノ保證ヲ以撰奉シ保  
證料トシテ職工志人ニ付金八錢宛ヲ毎月保證  
人ニ付與シ職工不正ノ所業アリテ放免スル時  
ハ志人ニ付過怠金三圓ヲ保証人ニ科シ而シテ  
勤績滿五ヶ年ニ及フモノハ其保證ヲ解キ工場  
信任ノモノトス又枝生以下男女職工ノ為ニ友

伍ノ規則ヲ設ケ技生職工ヲ論セス品行優等ノ  
者ヲ撰ミ伍長トシ互ニ忠告ヲ以テ其善ヲ勸メ  
其非ヲ責メ其榮譽ヲ保持セシムルモノトス而  
シテ工場ニ從事スル者ハ諸機械運轉ノ間ニ進  
退周旋シテ事ヲ執ルヲ以一般ニ洋服ヲ用ユル  
ノ制ヲ定メ日給壹圓以下ノモノハ役服ヲ貸與  
シ又各役事者獎勵ノ規則ヲ立擔任ノ事業ニ付  
新ニ便利ヲ發明シ或ハ機械用具ニ付新ニ便利  
ヲ發明シ或ハ工業超衆勉勵ニシテ進歩ノ効アリ  
或ハ諸帳簿整備正確ニシテ事務運方宜敷或  
ハ精巧ノ製品製造高超衆特絶或ハ皆勤勉勵等  
ノ者ハ半季毎ニ取調之ヲ賞賜シ又過誤失錯ノ  
少ナカラシムヲ要シ懲戒ノ法ヲ設ケ過怠金追

徵例規ニ據リ其過失ノ輕重ニ應シ過怠金ヲ追  
徵ス而シテ工業需用品ノ如キハ概子國產ヲ供  
用シテ之ヲ精製シ專ラ舶來品ヲ仰クノ流弊ヲ  
防キ機械物品ハ素ヨリ科室長ノ總轄スル所ナ  
リト雖モ一トシテ管守者魚キモノナシ物品ノ  
授受ニ於ケル必ス授付スル者ハ一人收受スル  
者ハ二人トシ後日ノ徵證ヲ確明ニスルヲ嚴則  
トス又不用ニ屬スル機械物品ハ毎月十日ヲ期  
トシ調度掛ニ返付シ同掛ニ於テハ不用物品ヲ  
合集シテ各部長ヲ會シ再ヒ其用否ヲ審査シ部  
長希望スル所アレハ同掛之カ媒介トナリ甲乙  
賣買ノ措置ヲナシ然ル後全ク不用ニ屬スルモ  
ノハ之ヲ入札拂ニシテ其代價ヲ收入ス而シテ

各部工業整理ノ方法ニ於テハ計眞概則ヲ制定  
シ都テ各人ノ手帳ヨリ起リ科室長ノ報告トナ  
リ該科室出納正損ノ日締ニ登記シ整理部科ニ  
於テハ前顯各室ノ日締ヲ照査正算シ製造品ノ  
日締需用品ノ日締製造現費ノ日締ヲ整理シ翌  
日之ヲ諸元帳ニ登記シ翌月十日限營業請拂報  
告製造品代價收入報告整備半製報告ノ月報ヲ  
計眞掛ニ出スル規則トス又医員ヲ置キ診察所ヲ  
設ケ負傷急病者一時ノ治療ニ備ヘ重傷ノ如キ  
ハ豫テ大學医学部附属病院ニ約定シテ治療ヲ  
施サレムルモトス又譯官ヲ置キ御雇外國人  
ノ通辭及翻譯ノ事ヲ掌トラシム守警ヲ置キ職  
制及規程ヲ定メ諸紙幣其他製品局内ノ運搬及

晝夜ノ警備火災消防等ニ從事セシメ工場総人  
員ノ戸籍簿ヲ備ヘ事實ノ有無ヲ調査シ門監視  
則テ設ケ各門及各部出入口ノ取締ヲ兼務セシ  
メ工場各員ノ給料百工ノ雇給ニ至ル迄孰レモ  
守警ノ記載スル所監視工ノ檢印スル所ノ勤怠録  
ニ據リ給與スルモノトス蓋シ當工場ノ業タル  
前文ニ掲クル如ク専ラ防質ヲ安スル紙幣製造  
彫刻製菓ノ如キ事業ニ始リ各種製造ノ事ニ連  
及スルヲ以テ或ハ廣ク和漢洋ノ歴史ニ通曉シ  
或ハ理化學ニ通曉スルモノアルニ非サレハ達  
セス況ンヤ物ヲ製シ器ヲ造スルモノノ學ニ因リ  
其基礎ヲ確立シ其精神ヲ一ニシカラ此業ニ專  
ラニセシメサレハ此責任ヲ負擔シ彼目的ヲ達

スル一能ハス曼ニ於テ學場ヲ設ケ其規則ヲ定  
メ幹事教員主簿ヲ置キ幼年技生ヲシテ専ラ修  
學セシメ又男女幼年工ヲシテ工業ノ餘暇習學  
裁縫ニ從事セシメ又伊國ニ留學生一名ヲ置キ  
彫刻ノ為專ラ画學ヲ修メシメ日本在留清國公  
使館ニ技生一名ヲ委托シ專ラ支那學ヲ修メシ  
ム然リ而シテ其工業ニ從事スル所ノ者ハ其責  
ムル所アリ其自ラ任スル所アリ以テ其志ヲ專  
一ナラシムルニ非サレハ技術ノ熟達ヲ期スル  
一能ハス故ニ曩者月給ヲ廢シ日給ニ改メ以テ  
各員ヲシテ奮興勇進スル所アラシム然ルニ執  
業ノ際過テ負傷シ又ハ藥毒ニ感染シテ病ニ罹  
ルモノ、如キハ官厚ク扶助ノ恩賜アリト雖獨



リ工業篤志勉勵ノ輩不幸ニシテ疾病災厄等ニ  
罹ルモ救助ヲ受クヘキ親戚等無之進退困難ノ  
事實アルモノニ於テ補助センカ為ニ明治九年  
五月良ハ私金ヲ投シ第一國立銀行へ預ケ子母  
金増殖ノ方法ヲ立ツ是ニ於テ當局有志ノ輩其  
舉ヲ善ミシ良ハノ微志ヲ助ケ投金スルモノ月  
ニ日ニ増加シ其金額益滋殖ス然レ共職工ノ如  
キハ投金ヲ許サス何トナレハ未タ他人ノ困難  
ヲ顧慮スルノ地位ニアラス且一人ノ請願ヲ嘉  
納スル時ハ衆工競争ノ弊ヲ生シ終ニ劫誘ノ姿  
ニ陥ルヲ以テナリ是ニ於テ内規ヲ定メ水火盜  
ノ難ニ罹ル者ヲ救恤シ或ハ孝義者ノ慰賞ニ當  
テ或ハ死葬ノ祭染埋葬料等ニ支出セシモノ既

ニ少シトセス然ルニ愈増殖シテ目今貳千餘圓  
ニ至レリ又工場役事者ノ為貯金銀行ノ主義ニ  
基キ同年以來積金規則ヲ設ケ第一銀行へ預ケ  
金ヲ約シ各自俸給ノ餘資ヲ投積シ檢束節約ノ  
心ヲ生シ以テ前途ノ生計ヲ謀リ益工業役事ノ  
志念ヲ厚カラシメントス其金額既ニ三萬圓ニ  
過キタリ

